

コスモ石油株式会社

2013年度第2四半期決算説明

2013年11月6日

代表取締役社長 森川 桂造

2013年度 第2四半期 連結経営成績の概要

1

- ▶ 7月に千葉製油所のトッパー2系列体制による本格稼働を再開し、収益力は着実に回復
- ▶ 経常利益は、184億円（前年同期比 401億円の改善）
純利益は、 12億円（前年同期比 803億円の改善）

当社供給体制について

2

- ▶ 7月に坂出製油所の閉鎖を実行
3製油所の生産能力を最適化し、競争力強化に向けた体制を構築（2013年7月）
- ▶ 当社千葉製油所と極東石油工業千葉製油所の共同事業に関する検討開始
操業の効率化および最適化を追求（2013年9月）

単位:億円

	2013年度 第2四半期	2012年度 第2四半期	前年同期比
売上高	16,535	14,492	2,043
売上原価	15,772	14,089	1,683
販管費	606	590	16
営業利益	157	△ 187	344
営業外損益	27	△ 30	57
経常利益	184	△ 217	401
特別損益	△ 2	△ 125	123
法人税等	147	425	△ 278
少数株主利益	23	24	△ 1
四半期純利益	12	△ 791	803

【参考】

在庫評価の影響	64	△ 172	236
在庫評価除き 営業利益	93	△ 15	108
在庫評価除き 経常利益	120	△ 45	165

単位:億円

	2013年度 第2四半期	2012年度 第2四半期	前年同期比
連結経常利益	184	△ 217	401
在庫評価の影響(※)	64	△ 172	236
連結経常利益 (在庫評価影響除き)	120	△ 45	165
四半期純利益	12	△ 791	803
①受入原油価格	104.23\$/B	109.40\$/B	△5.17\$/B
②為替	98.20円/\$	80.38円/\$	17.82円/\$

連結経常利益 セグメント別内訳

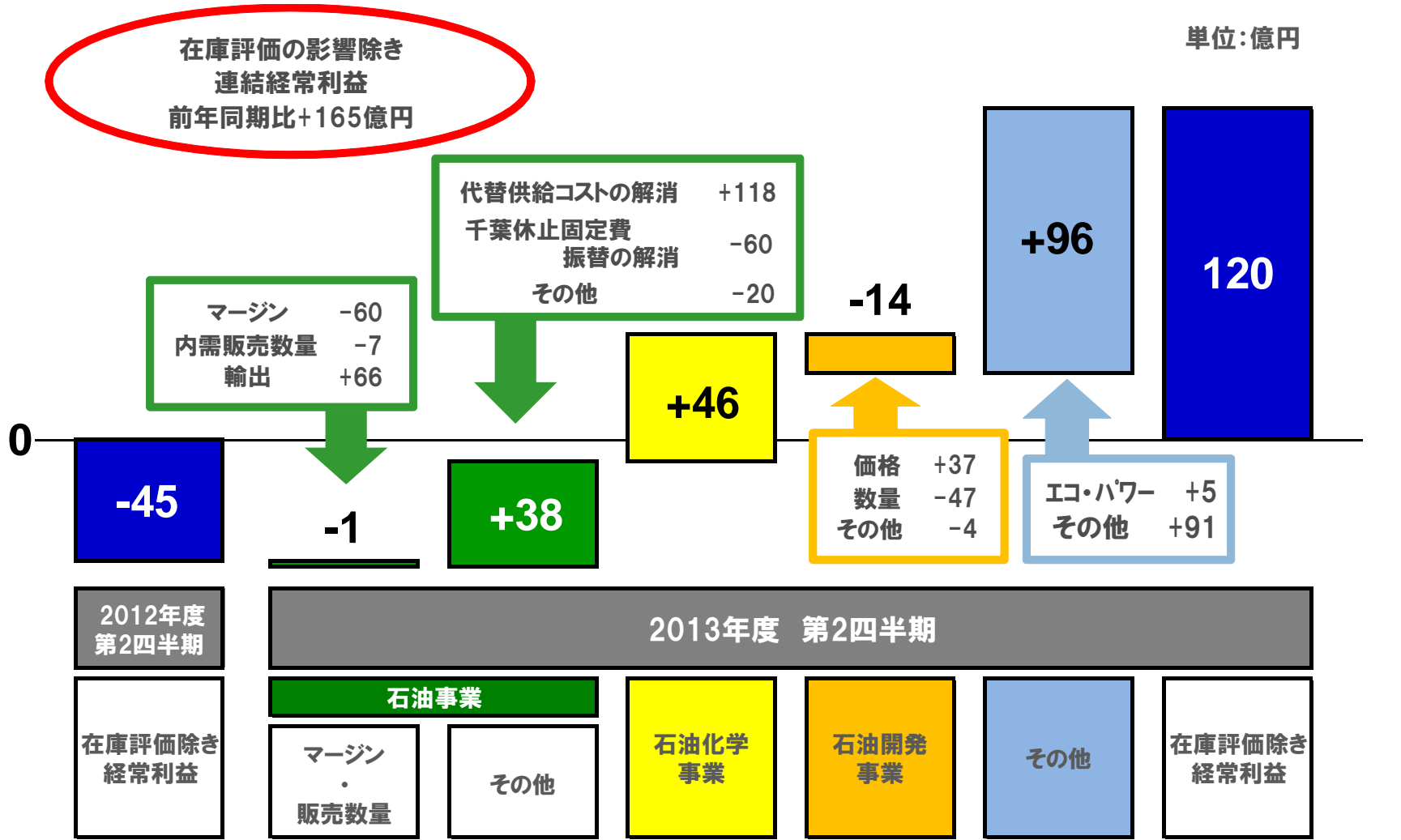
	2013年度 第2四半期	2012年度 第2四半期	前年同期比
石油事業	△ 106	△ 377	271
石油事業 (在庫評価影響除き)	△ 170	△ 207	37
石油化学事業	26	△ 22	48
石油化学事業 (在庫評価影響除き)	26	△ 20	46
石油開発事業	228	242	△ 14
その他	36	△ 60	96

※在庫評価の影響 石油事業：FY2013 2Q 64億円 / FY2012 2Q △170億円

※在庫評価の影響 石油化学事業：FY2013 2Q 0億円 / FY2012 2Q △2億円

主な変動要因

- 石油事業 : 製品市況が低迷するも、千葉製油所再稼働の効果により増益
- 石油化学事業 : 主に丸善石油化学の収益改善(市況改善等)により増益
- 石油開発事業 : アブダビ石油の生産数量減少により減益



単位:億円

	実績 (2013年9月末)	前期末 (2013年3月末)
営業活動によるキャッシュ・フロー	395	△ 210
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 343	△ 805
財務活動によるキャッシュ・フロー	20	1047
期末のキャッシュ残高	1,410	1,297

単位:億円

	実績 (2013年9月末)	前期末 (2013年3月末)	増減
総資産	16,477	17,435	△ 958
純資産	2,650	2,569	81
自己資本	2,361	2,305	56
自己資本比率	14.3%	13.2%	1.1 ポイント改善
有利子負債	8,467	8,429	38
有利子負債依存度	51.4%	48.3%	3.1 ポイント悪化
D/Eレシオ(倍)	3.6	3.7	0.1 ポイント改善
ネット有利子負債※	6,994	7,132	△ 138
有利子負債依存度	42.4%	40.9%	1.5 ポイント悪化
D/Eレシオ(倍)	3.0	3.1	0.1 ポイント改善

※有利子負債総額から現金・預金を控除したもの

設備投資・減価償却費等

単位:億円

	2013年度 第2四半期	前年同期比
設備投資	140	△ 12
減価償却費等	183	△ 44

設備投資 セグメント別

単位:億円

	2013年度 第2四半期	2012年度 第2四半期	前年同期比
石油事業	120	107	13
石油化学事業	3	3	0
石油開発事業	37	47	△ 10
その他	9	2	7
調整額	△ 29	△ 7	△ 22
合計	140	152	△ 12

業績予想修正について

1

上期の石油製品市況の低迷・アブダビ石油の販売数量減少を
織り込み、通期計画の見直しを実施
下期は当初計画を据え置き

下期見通しについて

2

- ▶ **石油事業**
3製油所体制によるフル稼働に加え、販売部門における収益改善への取り組み
- ▶ **石油開発事業**
石油開発会社3社は、当初通りの収益計画を達成
- ▶ **石油化学事業**
千葉製油所再稼働に伴い、CMアロマのMX装置が稼働再開(10月)

単位:億円

	2013年度 通期業績予想	2013年度 当初公表	当初公表比
連結経常利益	540	610	△ 70
在庫評価の影響(※)	70	0	70
連結経常利益 (在庫評価影響除き)	470	610	△ 140
当期純利益	140	160	△ 20
①原油価格	104.90\$/B	100.00\$/B	4.90\$/B
②為替	98.90円/\$	100.00円/\$	△1.10円/\$

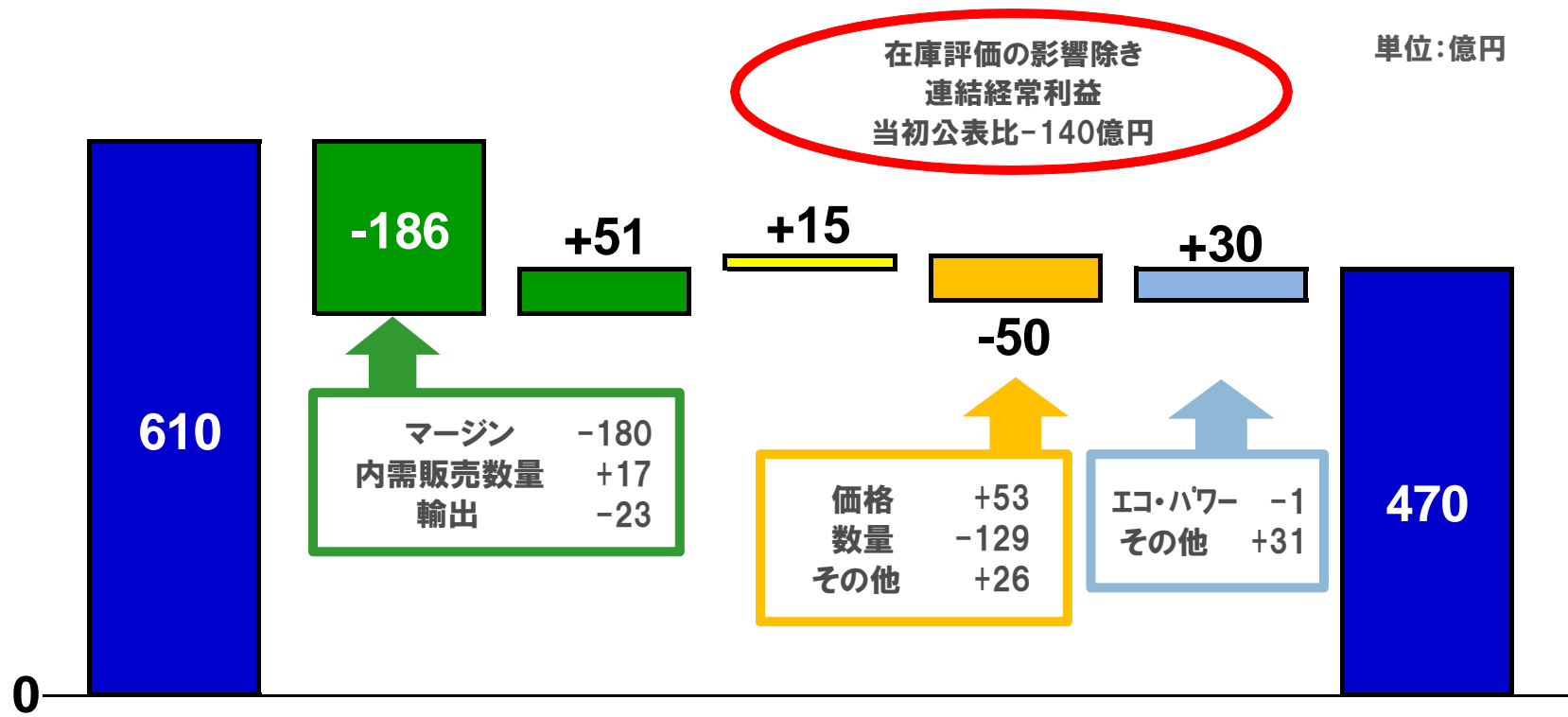
連結経常利益 セグメント別内訳

	2013年度 通期業績予想	2013年度 当初公表	当初公表比
石油事業	△ 35	30	△ 65
石油事業 (在庫評価影響除き)	△ 105	30	△ 135
石油化学事業	50	35	15
石油化学事業 (在庫評価影響除き)	50	35	15
石油開発事業	505	555	△ 50
その他	20	△ 10	30

※在庫評価の影響 石油事業：FY2013 70億円 / FY2013(当初公表) 0億円

主な変動要因

- 石油事業 : 上期のマージン未達分を反映、下期計画は据え置き
- 石油開発事業 : 上期のアブダビ石油における販売数量減少を反映、下期は据え置き



当初公表	2013年度 通期業績予想					
在庫評価除き 経常利益	石油事業		石油化学 事業	石油開発 事業	その他	在庫評価除き 経常利益
	マージン ・ 販売数量	その他				

第5次連結中期経営計画

－2013年上期進捗と下期方針－

中計基本方針

石油精製販売事業における収益力の回復

前中期経営計画で実施した戦略投資の確実な回収

IPIC・HDOとのアライアンス強化

CSR経営の推進

- ・第5次連結中計で策定した6つの施策の内、最も改善度の大きい石油精製販売事業では7月に「千葉製油所2トッパー体制」「坂出製油所閉鎖(オイルターミナル化へ)」を実行
- ・下期は、秋の定期修理後、12月の最需要期に向け3製油所体制によるフル稼働へ

<施策①> 3製油所安定稼働による収益力回復

製油所名	トッパー	能力 (BD)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
千葉	1T	11.0万		→						●	●	→			
	2T	13.0万	→	●	●		→	→							
四日市	5T	8.0万	→												
	6T	7.5万	→								●	●	→		
堺	—	10.0万	→						●	●	→				
坂出	—	14.0万	→												

【トッパー稼働率】	実績(上期)	計画(下期)	計画(13FY通期)
	65.2%	82.9%	73.3% (CD)
	80.4%	94.5%	87.1% (SD)

千葉製油所装置群



新設LPGタンク



再塗装した集合煙突(左)



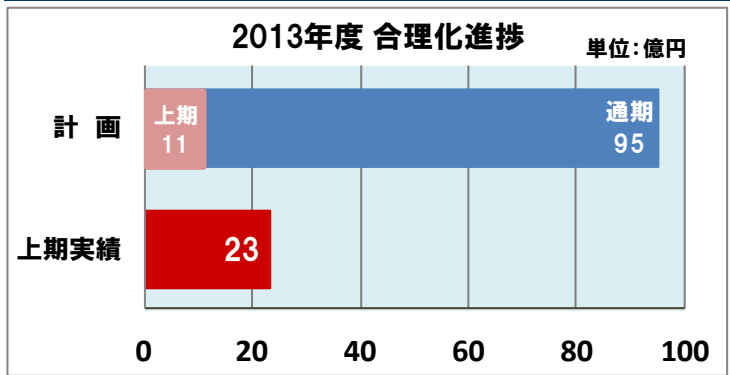
リフォーマー(接触改質装置)



FCC(流動接触分解装置)

- ・ 合理化は、上期計画に対し着実に進捗。下期も精製部門を中心にコスト適正化へ向けた徹底した合理化を進める
- ・ また、坂出製油所閉鎖による固定費削減に加え、在庫低減への取組みも着実に進捗
- ・ リテールビジネスについては、ビークルリースが順調に実績を積み上げ、今年度中に累計10,000台突破を目指す。また、燃料油のみに頼らないビジネスモデルの構築に向け燃料油販売とカーリースを組合わせた新たな販売システムとして特許を申請中

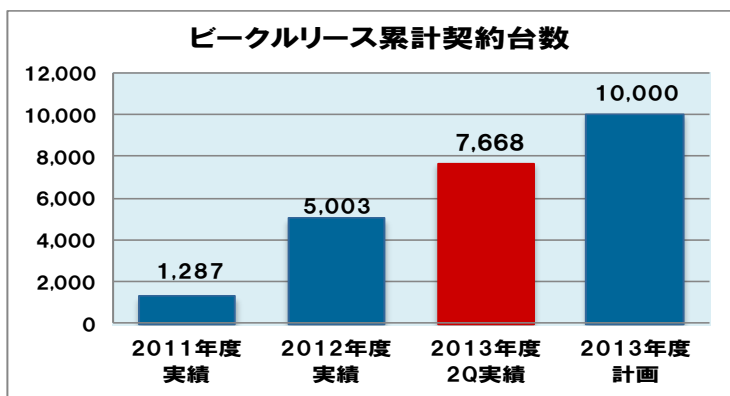
<施策②> 製油所を中心とした徹底した合理化



【合理化の進捗】
 ■ 実績(上期) : 23億円
 □ 計画(通期) : 95億円(上期11億円/下期84億円)

【原油・製品等の在庫低減】
 ■ 9月末(実績) : Δ 242,000 KL
 □ 3月末(見込) : Δ 587,000 KL
 注)2013年3月末対比

<施策③> リテールビジネスの強化(コスモビークルリース事業深化)



【9月末時点の累計契約台数:7,668台】
 ■ 2013年度累計目標 : 10,000台



【「リース契約車両への燃料販売システム」特許申請中】
 SSの顧客管理システムを活用し、個別契約に応じて燃料油販売とカーリースを組み合わせた新たな販売システム

- ・前中期経営計画で戦略投資した各事業は、計画通り進捗
- ・石油化学事業で千葉製油所に隣接するCMアロマのMX装置(生産能力27万t)が10月より稼働再開
- ・石油開発事業のヘイル新鉱区では2016年中の生産開始に向け、埋蔵量評価や地表設備検討等を実施中

<施策④> 石油化学事業(MX事業)

- ・CMアロマのMX装置・稼働再開 : 10月、千葉製油所の2次装置リフォーマーが稼働し原料供給を再開
- ・韓国HDOとの合併事業の深化 : 10月、人材交流を目指しコスモ-HDO間でMOUを締結



<施策⑤> 石油開発事業

- ・新鉱区ヘイル油田(探鉱ステージ) : 埋蔵量評価・地表設備検討等を実施中
*2016年生産開始予定



<施策⑥> 再生可能エネルギー事業

- ・新規サイト(3サイト合計約9万kw) : 和歌山県・広川(約2万kw)着工済
*2014年10月 運転開始予定
福島県・会津(1.6万kw)着工済
*2015年3月 運転開始予定
- ・既存20サイト(14.5万kw) : 順調に稼働し収益安定化



・ 当社千葉製油所(24万BD)と極東石油工業千葉製油所(17.5万BD)の
 共同事業検討に関する覚書を締結。さらなる操業効率化、最適化を追求

<検討の背景>

当社と三井石油、東燃ゼネラル石油3社は、京葉臨海コンビナート地区で隣接する両製油所が、それぞれの強みを生かし共同事業を行う事で効率化向上し、国際競争力を持った**国内トップクラスの製油所へ成長、発展**するとの認識で一致し、以下について具体的検討を開始する事を合意

検討事項①

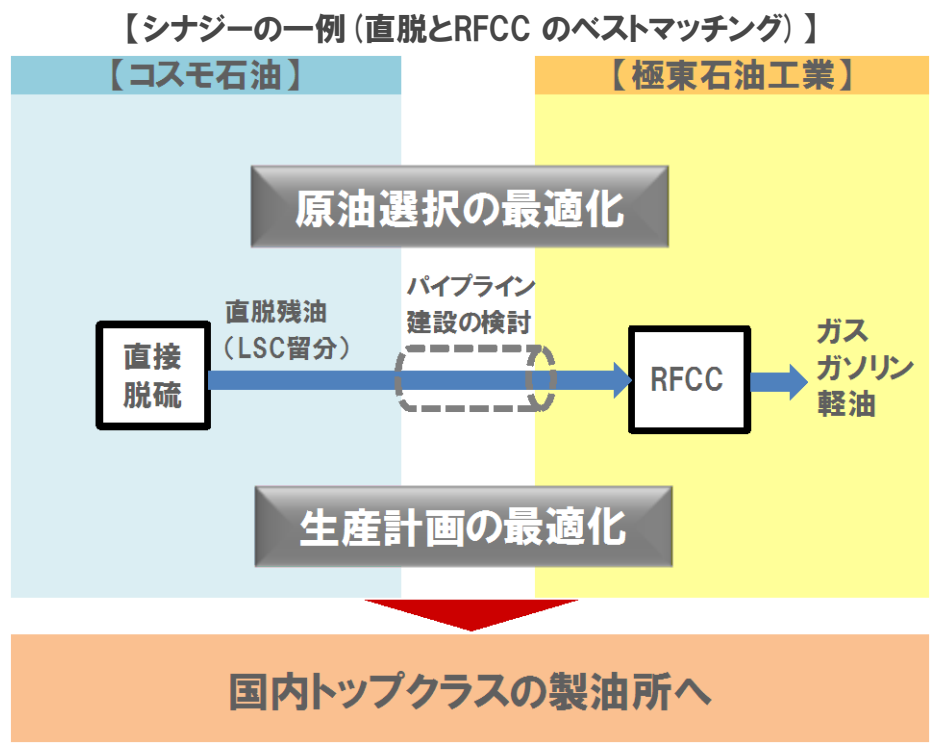
両製油所間を結ぶパイプライン建設を含めた当該製油所操業全般の連携による効率化の追求について

検討事項②

両製油所の原油選択、生産計画の最適化について

検討事項③

①②の達成目指した共同事業体の設立の可能性について



補足資料

- P14 : 【2013年度 第2四半期実績】 販売数量
- P15 : 【2013年度 第2四半期実績】 原油コスト・処理量、稼働率、原油生産数量
- P16 : 【2013年度 第2四半期実績】 セグメント別実績:前年同期比
- P17 : 【2013年度 第2四半期実績】 人員数、油槽所数、SS数、カード枚数別推移
- P18 : 【2013年度通期業績予想】 セグメント別予想(当初公表比)および連結 設備投資の概要
- P19 : 【2013年度通期業績予想】 セグメント別予想(前年比)および原油・為替前提と感応度
- P20 : 【2013年度 通期業績予想】 連結経常利益(在庫評価影響除き)前年比 増減分析
- P21 : 軽油輸出の実績・マージン環境
- P22 : 石油化学事業 アロマ市況

※最新の「データブック」および「用語集」は以下URLのIRサイトに掲載しています。

<http://www.cosmo-oil.co.jp/ir/financial/index.html>

単位:千KL

		2013年度 第2四半期	2012年度 第2四半期	増減	前年同期比	2013年度 通期計画 (当初公表比)	2013年度 通期計画 (前年比)
内需燃料油	ガソリン	3,101	3,042	60	102.0%	102.0%	101.3%
	灯油	514	510	4	100.8%	100.7%	100.7%
	軽油	2,184	2,207	△ 23	99.0%	103.0%	97.9%
	A重油	805	876	△ 71	91.9%	98.0%	96.9%
	4品計	6,605	6,635	△ 30	99.5%	101.5%	99.6%
	ナフサ	3,091	2,837	254	109.0%	99.2%	99.2%
	ジェット	219	227	△ 9	96.2%	98.1%	98.2%
	C重油	968	1,428	△ 460	67.8%	86.9%	80.0%
	(内 電力C重油)	546	947	△ 401	57.6%	52.8%	46.4%
	計	10,883	11,127	△ 244	97.8%	99.2%	97.1%
中間留分輸出	軽油	761	45	716	1692.7%	98.6%	2815.4%
	灯油/ジェット	0	0	0	-	22.5%	-
	計	761	45	716	1692.7%	85.9%	2944.4%
保税販売他	ジェット	897	882	14	101.6%	100.7%	108.1%
	C重油	271	259	12	104.7%	99.4%	105.1%
	その他	439	542	△ 103	81.0%	134.8%	76.8%
	計	1,607	1,684	△ 77	95.4%	106.3%	98.9%
バーター・その他	4,641	4,315	326	107.6%	98.9%	107.3%	
総販売数量	17,892	17,171	721	104.2%	99.1%	103.3%	

【1】原油コスト・原油処理量・稼働率

		2013年度 第2四半期	2012年度 第2四半期	前年同期比	
受入原油	原油(FOB) \$/BBL	104.23	109.40	△ 5.17	—
	為替レート ¥/\$	98.20	80.38	17.82	—
	受入原油代(税込) ¥/KL	68,048	58,717	9,331	—
原油処理	原油処理量千KL	11,155	10,384	771	107.4%
	トッパー稼働率(CD)	65.2%	56.2%	9.0%	—
	トッパー稼働率(SD)	80.4%	82.1%	△ 1.7%	—

※SD: 定期整備等の影響を除いた稼働率

【2】原油生産数量

		2013年度 第2四半期	2012年度 第2四半期	前年同期比	出資比率
開発会社 生産数量 (B/D)	アブダビ石油	17,902	21,029	85.1%	63.0%
	カタール石油開発	7,234	7,415	97.6%	75.0%
	合同石油開発	11,161	13,332	83.7%	45.0%

※生産量: プロジェクト会社の期中平均生産量。(各社12月決算会社のため生産期間は1-6月)

2013年度第2四半期実績 前年同期比

単位：億円

	売上高		営業利益		経常利益		経常利益 (在庫評価・低価法影響除き)	
		前年同期比		前年同期比		前年同期比		前年同期比
石油事業	16,251	2,008	△ 63	269	△ 106	271	△ 170	37
石油化学事業	149	16	7	9	26	48	26	46
石油開発事業	320	△ 21	183	△ 32	228	△ 14	228	△ 14
その他	334	1	17	18	24	16	24	16
調整額	△ 519	39	13	80	12	80	12	80
合計	16,535	2,043	157	344	184	401	120	165

グループ会社（セグメント別）

石油事業	： コスモ石油、コスモ石油販売、コスモ石油ガス、コスモ石油ルブリカンツ、総合エネルギー他
石油化学事業	： コスモ松山石油、CMアロマ、丸善石油化学(持分法適用会社)、Hyundai Cosmo Petrochemical(持分法適用会社)
石油開発事業	： アブダビ石油、カタール石油開発、合同石油開発(持分法適用会社)他
その他	： コスモエンジニアリング、コスモトレードアンドサービス、エコ・パワー他

【1】人員数推移

	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度	12年度	13年度2Q
石油単体	1,916	1,957	2,064	2,180	2,135	2,025	1,899	1,870
グループ	3,335	3,299	3,269	3,325	3,268	3,098	2,840	2,825

※各年度3月末時点

※グループ:(08年度まで)石油単体+出向 (09年度以降)石油単体+出向+試傭員+シニア社員

【2】油槽所数推移

	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度	12年度	13年度2Q
DT数	38	38	38	36	35	35	35	35

【3】運営者別SS数推移

	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度	12年度	13年度2Q
販社	1,122	1,104	1,023	1,025	967	939	914	905
特約店	3,237	3,021	2,890	2,743	2,642	2,559	2,411	2,370
固定式SS計	4,359	4,125	3,913	3,768	3,609	3,498	3,325	3,275
可搬式SS	57	53	47	43	36	34	33	34

※05年度までは12月末時点とし、06年度からは3月末時点

【4】セルフSS数推移(固定式SSの内数)

	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度	12年度	13年度2Q
販社	463	507	551	575	548	550	550	549
特約店	326	360	404	429	455	457	449	456
合計	789	867	955	1,004	1,003	1,007	999	1,005
セルフSS数比率	18.1%	21.0%	24.4%	26.6%	27.8%	28.8%	30.0%	30.7%

【5】コスモ・ザ・カード枚数推移(06年度よりオーパスも含む数値)

(万枚)

	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度	12年度	13年度2Q
有効枚数	280	305	335	357	367	381	397	403

【6】コスモビークルリース累計契約台数推移

(台)

	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度	12年度	13年度2Q
累計契約台数	-	-	-	-	-	1,287	5,003	7,668

2013年度 通期セグメント別予想(当初公表比)

単位:億円

	売上高		営業利益		経常利益		経常利益 (在庫評価・低価法影響除き)	
		当初公表比		当初公表比		当初公表比		当初公表比
石油事業	34,900	300	50	△ 65	△ 35	△ 65	△ 105	△ 135
石油化学事業	590	△ 210	15	△ 5	50	15	50	15
石油開発事業	810	△ 170	450	△ 80	505	△ 50	505	△ 50
その他	750	50	40	10	55	10	55	10
連結処理	△ 1,450	130	△ 35	20	△ 35	20	△ 35	20
合計	35,600	100	520	△ 120	540	△ 70	470	△ 140

設備投資・減価償却費等

単位:億円

	2013年度 今回予想	当初公表比
設備投資	568	△ 88
減価償却費等	319	△ 18

設備投資 セグメント別

単位:億円

	2013年度 今回予想	2013年度 当初	当初公表比
石油事業	341	371	△ 30
石油化学事業	9	7	2
石油開発事業	176	235	△ 59
その他	51	51	0
調整額	△ 9	△ 8	△ 1
合計	568	656	△ 88

2013年度 通期セグメント別予想(前年比)

単位:億円

	売上高		営業利益		経常利益		経常利益 (在庫評価・低価法影響除き)	
		前年比		前年比		前年比		前年比
石油事業	34,900	3,738	50	151	△ 35	202	△ 105	285
石油化学事業	590	285	15	0	50	17	50	17
石油開発事業	810	△ 49	450	△ 93	505	△ 102	505	△ 102
その他	750	△ 113	40	7	55	6	55	6
連結処理	△ 1,450	72	△ 35	△ 69	△ 35	△ 67	△ 35	△ 67
合計	35,600	3,933	520	△ 4	540	56	470	139

前提条件 および 感応度

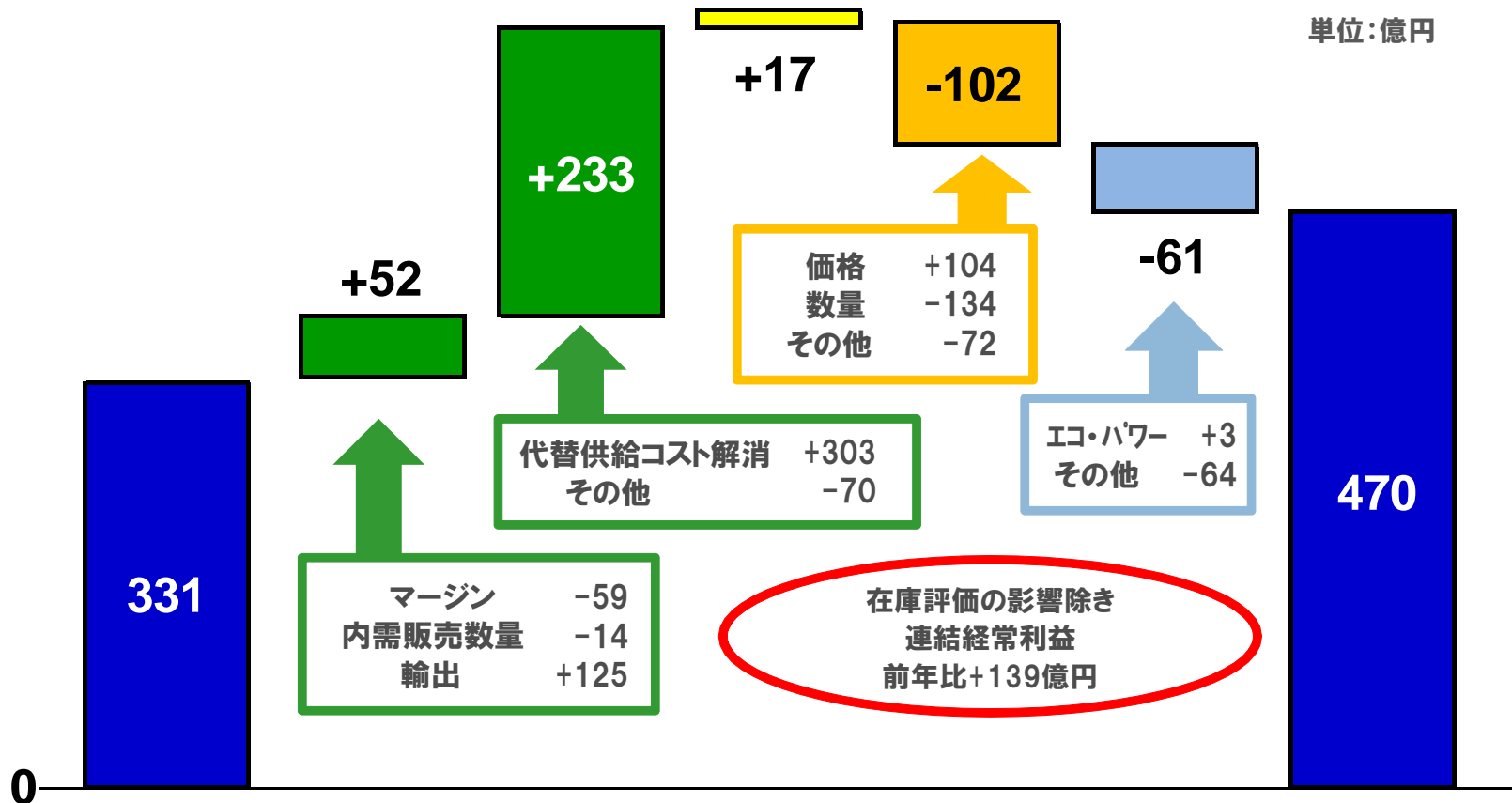
	前提	感応度	
		石油事業	石油開発事業
原油価格	104.90 \$/B	+23 億円	+3 億円
為替	98.90 円/\$	+25 億円	+4 億円

※感応度は、原油価格+1\$/Bあたりの影響額および為替+1円/\$あたりの影響額。

※上記は原油価格・為替変動の在庫評価益、自家燃コスト、タイムラグに対する影響(低価法の影響は考慮せず)

※当感応度の期間については石油事業が2013年10月～2014年3月までの6ヶ月間、石油開発事業が2013年10月～12月の3カ月間で試算した数字

単位: 億円



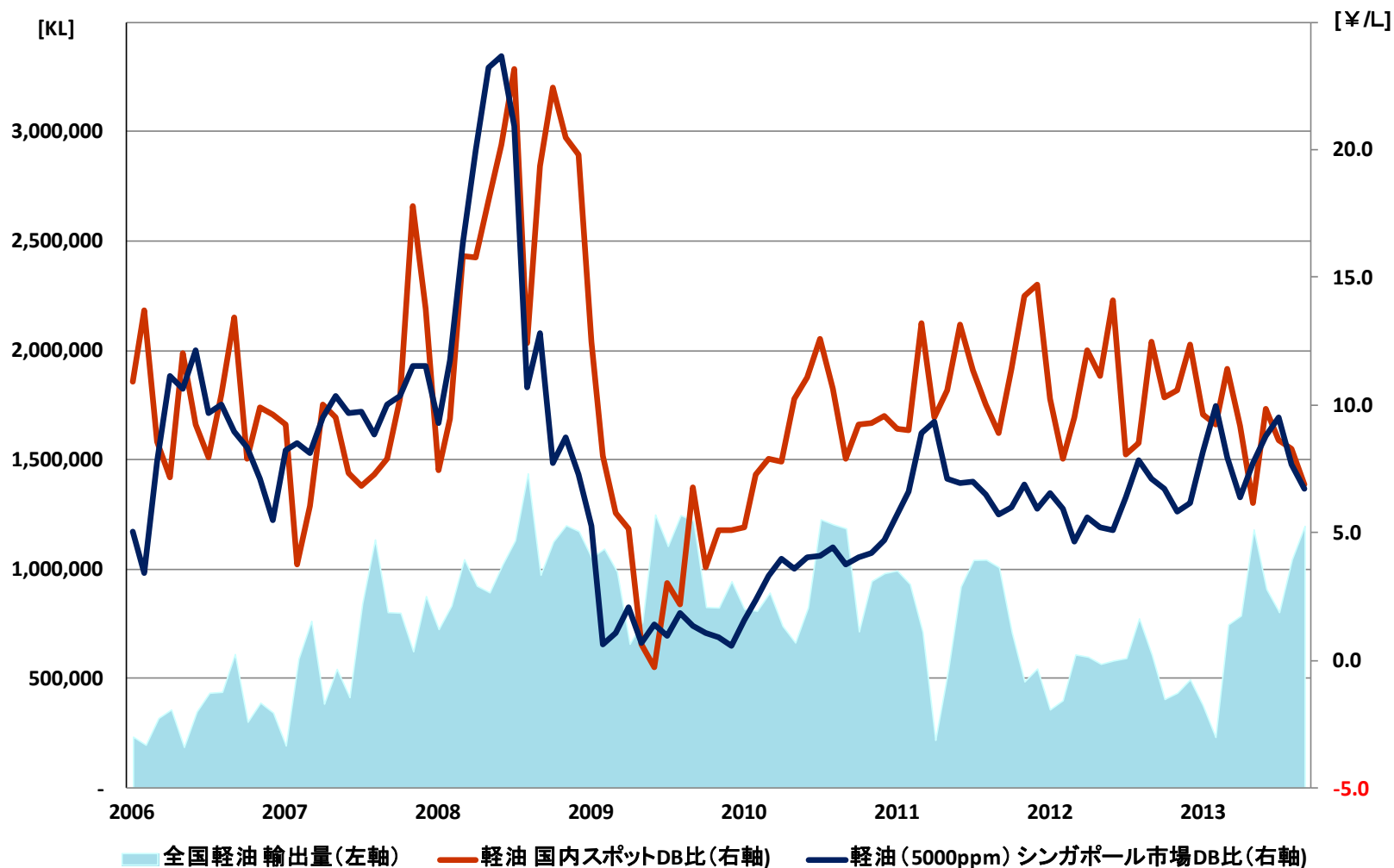
2012年度
実績

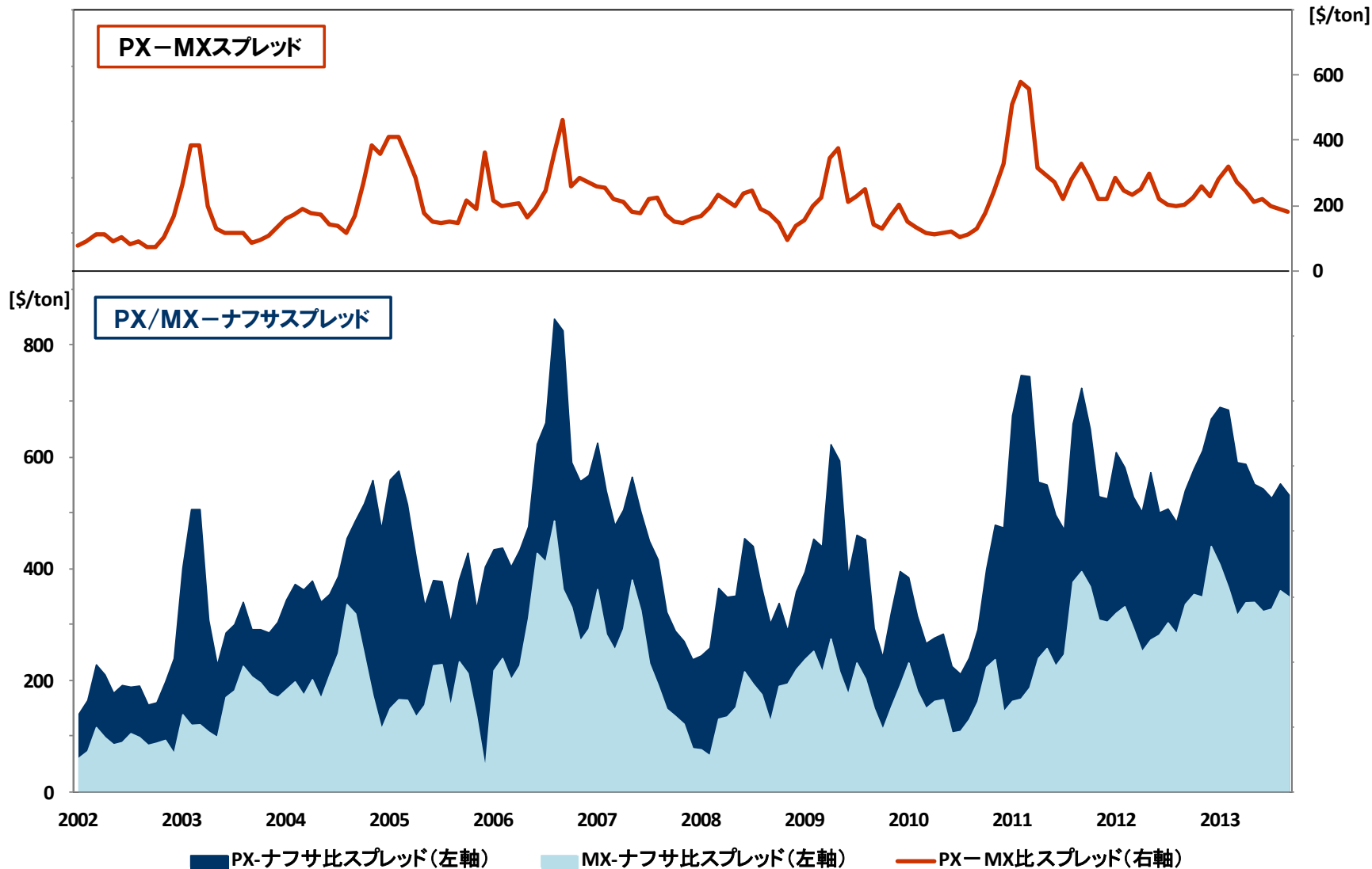
在庫評価除き
経常利益

2013年度 通期業績予想

石油事業		石油化学 事業	石油開発 事業	その他	在庫評価除き 経常利益
マージン ・ 販売数量	その他				

軽油の輸出量と国内/海外マージンの推移





見通しに関する注意事項

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。